

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用\_コロナ対策版)**」、フォルダ「**(共通)**」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1701		
科目名	英語 I		
担当教員	加納 奈保子		
対象学年	1年	開講学期	前期
曜日・時限	月 3		
講義室	1205	単位区分	必,選必
授業形態	講義	単位数	1
科目大分類	総合教育科目		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	7 語学		
科目の位置付け（開発能力）	<p>■DPコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連</p> <p>DP1-D 〔市民的素養・市民的教養〕 市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。</p> <p>DP2-A 〔日本の精神文化を理解し多様な価値観を受容する姿勢〕 地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。</p> <p>DP4-I 〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。</p> <p>DP6-K 〔表現力・対話力〕 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。</p> <p>■CRコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CP）との関連</p> <p>D1 市民的素養と参加（10%）</p> <p>A1 グローバル感覚（5%）</p> <p>A2 異文化適応（5%）</p> <p>I1 理解・分析と読解（60%）</p> <p>K1 ライティング・コミュニケーション（10%）</p> <p>K2 オーラル・コミュニケーション（10%）</p>		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	<p>■能力開発の目標ステージとの対応</p> <p>※クラスによって、目標となるステージが異なります。</p> <p>3 発展期～4 定着期</p> <p>2 進行期～3 発展期</p> <p>1 萌芽期～2 進行期</p>		
科目概要・キーワード	<p>英語の基礎学力のうち、読解力の養成を目的とします。既習の文法項目の整理・確認を行いながら、様々な英文読解の実践を行います。授業は習熟度別クラス編成により演習形式で実施します。なお、授業を補完するものとして、必要に応じて e-learning を使用します。</p> <p>（キーワード） リーディング・文法・語彙</p>		
授業の趣旨	<p>■副題 Reading Comprehension</p> <p>■授業の目的 E-mail、blog、articleといった実用的なものからacademic readingに至る幅広い英文を読み、その大意や細かい情報を読み取る力を向上させることを目的とします。また、日本語からでは理解できない異文化、世界の動向を知るために、英語そのもので捉えられるよ</p>		

	<p>うにします。最終的に、文章の内容に関して、ペアワークやグループワークを通じて、自分の意見を英語で伝える訓練も行います。</p> <p>■授業のポイント 大学教育およびキャリア教育に英語を活用できるように、実践練習を通じて英文読解力を養います。</p>
総合到達目標	<p>■ 一般目標 (GIO) グローバルな視点を養うために、基礎的な文法・語彙を身に付けるとともに、情報を読み取る方法を実践し、英文読解力を修得する。</p> <p>■ 個別行動目標 (SBOs) ・ターゲットとなるgrammarの使い方と、そのgrammarが日常生活においてどのような場面で使用されるかを説明することができる。(第2, 4, 6, 8, 9, 11, 13, 15回) ・英文の読み方に関するスキルを使って、様々な文章を正しく読み、必要な情報を読み取ることができる。(第3, 5, 7, 8, 10, 12, 13, 14, 15回) ・学修したgrammarを使って、様々な事柄を自分の言葉で表現することができる。(第2-14回) ・ターゲットとなるgrammarを使って、自分の意見を述べることができる。(第1-15回)</p>
成績評価方法	<p>(適用ルーブリック) D1: 10%、A1: 5%、A2: 5%、I1: 60%、K1: 10%、K2: 10%</p> <p>(成績評価手段) ■授業内試験 (30%) (評価の観点) 当該単元の理解度を測ります。 (フィードバック方法) 授業時間中に解説を行います。 ■授業参画度 (40%) (評価の観点) 協力的かつ積極的にアクティビティに参加しているかどうかを評価します。 (フィードバック方法) 主に授業内で適宜フィードバックを行います。 ■課題 (30%) (評価の観点) 当該単元で設定されているゴールの達成度合いを図ります。 (フィードバック方法) 主に授業内で適宜フィードバックを行います。</p>
履修条件	英語 IIを同時に履修すること。
履修上の注意点	<p>1. レッスンピックやマテリアルはクラスのレベルと授業の進度により変更になる場合があります。詳細は授業内でお知らせします。</p> <p>2. 必ず新しいテキストを購入してください。また、テキストは毎回の授業に必ず持参すること。</p> <p>3. 授業中のスマートフォンの使用は単語や英語表現を調べることに限り可とします。ただし明らかに授業と関係のないサイトを閲覧、メッセージのやり取りを行うなど授業の聴講を妨げる行為については厳重注意を行い、減点評価とします。これはパソコンの使用についても同じです。</p> <p>4. 宿題、課題は必ず期限内に実施すること。</p> <p>5. 授業を欠席あるいは遅刻をした場合、宿題・課題等の確認は自分自身で責任を持って行うこと。欠席、遅刻は宿題・課題を完了できなかった理由にはなりません。</p> <p>6. 公欠の場合は、事前に教員に連絡すること。事後は認めません。</p> <p>7. 授業は学生主体で行われるため、間違いを恐れずに積極的に参加すること。</p>
授業内容	
関連科目	英語 II (RMGT/SSCS 1702)、英語 III (RMGT/SSCS 1703)、英語 IV (RMGT/SSCS 1704)
教科書	<p>※クラスによって使用するテキストは違います。教員の指示に従って、該当するテキストを各自1冊購入すること。</p> <p>・Ken Beatty, StartUp 4: Workbook(Latest Edition)、Pearson、ISBN 9780135177488 ・Ken Beatty, StartUp 1: Workbook(Latest Edition)、Pearson、ISBN 9780135177518</p> <p>※以下のテキストは、英語II、IVと共通で使用します。こちらもクラスによって使用するテキストは違います。教員の指示に従って、該当するテキストを各自用意すること。</p> <p>・Ken Beatty, StartUp 4: Student Book with Mobile App &amp; MyEnglishLab、Pearson、ISBN 9780135178430 ・Ken Beatty, StartUp 1: Student Book with Mobile App &amp; MyEnglishLab、Pearson、ISBN 9780135178461</p>
参考書・参考URL	<p>・石井隆之他、Funny Laws in the World、南雲堂、ISBN 9784523177845 ・坂部俊行他、Sports and English: Communicating with the World、南雲堂、ISBN 9784523178255</p>
連絡先・オフィスアワー	質問には、授業前後の時間で対応します。

研究比率	
------	--

